

## 景況実感調査(11月) 特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

### 薄板・表面処理鋼板

- ① 10月と同様に、在庫のタイト感があるものの、それに順じた値上げの勢いが無い。メーカーの強気が店売りマーケットに拡大されていない。一方、建材分野において物件を抱えているユーザーの好調も見られる。メーカーもフル生産で、店売り用途の母材の納期遅れが懸念される。
- ② 対前月比で稼働日が1日減り、売上減となった。メーカーのメッキ品の引き受けはかなりタイト化しており、1.5万円値上げ発表もかなり実現の可能性も見える環境と考えられる。建築関連だけでなく、自動車他も人手不足が顕在化してきており、足元の繁忙感に比して、売上、数量ともに伸びてこない。生産能力、施工能力がボトルネック化しており、来年度はこれが設備投資や賃上げを後押しすると思われる。
- ③ 特別な分野(太陽光関連)以外は、荷動きに変化なく多忙感はない。したがって、価格転嫁も6~7合目で一服状態となっている。在庫も低水準で推移しているが、不足感はない。
- ④ 国内薄板メーカーは値上げを発表しているが、ユーザーに値上げの浸透は十分ではない。
- ⑤ メーカーからのコイル入荷状況が悪い。

### 中板

- ① 地方は好調だが関東はいま一つ。ようやく各社ともに本格的な値上げ交渉が始まる。底値も切り上がってきており、価格転嫁を加速させたい。

### 厚板

- ① 旺盛な建築需要によりFABの供給能力にはますます逼迫感が出てきている。鉄骨供給能力一杯の状況がしばらく続く見込みであり、それに伴う材料供給要請も非常に強くなっている。高炉、電炉ともにタイト感がいっそう増しており、リードタイムも月を追うごとに長くなっている。店売り分野においては、枠確保が困難な状況になっている。メーカーも強気の姿勢を崩しておらず、もう一段の値上げの可能性もある。
- ② 数量、売上ともに前月比10%以上の減であるが、10月が前月比30%増で良すぎた。仕事量は、依然として好調である。

### — 舟安开金岡

- ① オリンピック効果で世間の動きも良い方向に行っているのではないかと。建築の方も上向きになり、日本全体が良くなってくればよい。
- ② 売上高、粗利は前月比横ばいだが、営業日数は前月より2日減なので、今月の方が成績は良い。年末年始の営業日数減も十分カバー出来る需要水準である。目下の問題は配送するトラックの不足である。

## IH形鋼

- ① 出庫は、前月と同様に好調だが、前月のメーカー出荷遅れの影響が完全には消えていない分、サイズによっては歯抜けも出ているために、品薄感が続いている。メーカーの値上げが続いているため、積み残している価格転嫁が急がれる。
- ② 季節的要因で需要は落ちてきた。例年通りであるが、メーカーの対応をみていると市況の下落は考えにくい。

## 異形棒鋼

- ① 店売りは例年と同様に10月、11月は良かった。12月に入り、引き続き良いが年初はどうか。今まで良かった反動はないか、状況を見極め必要がある。
- ② ようやく販価も上昇し、需要期入りの感触である。メーカーの姿勢は強固で供給面の不安を感じるが、市況はもう一段上昇することが期待できる。

## 平鋼

- ① メーカーの連続値上げが止まらず、引き続き価格は上昇。建築を中心に需要があるのか、荷動きも回復しつつあり、市中ではタイト感も出てきた。年明け以降も建築需要はあると予想されており、この状況はもうしばらく続くと思われる。

## 鋼管

- ① ムードは昨年より数段良い。大きいもの、小さいものも全体的に受注増になっている。
- ② 荷動きは回復基調であるが、価格転嫁が遅れており、採算面の改善はこれからになる状況である。

## 構造用鋼

- ① 需要動向は、自動車関連部品及びトラック関連部品については引き続き堅調な動きが続いているが、先々、生産調整等の不透明感はある。建機分野については、減少傾向となっており、さらに1～3月は生産計画を下方修正しており、大幅減が予想される。店売りについては、店売り比率の高い建設機械が減少していることもあり、全体的に減少傾向となっている。市況については、メーカーの値上げに伴い再販価格転嫁を進めているが、荷動きが低調なこともあり市況上伸には、まだしばらくかかるものとは思われる。
- ② 鉄鋼メーカー各社値上げ実施後の材料が入荷してきているが、荷動きはあまり良くなく、値上げの転嫁も進んでおらず、状況は厳しい。

## 鋼材全般

- ① メーカー値上げに遅れながら、値上げ浸透に向けて営業中。

## その他

### <曲げ加工>

- ① 本年前半から見れば、やや景気が良くなって来たかに思えるが、まだ安心出来る状況ではない。ただし、すこしまとまった物件の見積りおよび加工が増えて来たように思われる。2020年のオリンピック開催の件も加わり、今後徐々に良くなっていくものと期待したい。

<スクラップ>

- ① 産業の空洞化が予想以上に進行していると同時に、人口減少が続き国内産業は先を望めない。努力しかない。

<金属表面処理加工>

11月は紐付き、物件物ともに計画通り。スポットは前月より10%減少したものの、引合いが活発なことから、来月以降、大幅に扱い量の増加を予想。12月はプラントを付加価値の高い加工が多く、平均単価も上昇予定。各種原材料高騰による塗料の値上げが予想され、状況を見ながら加工賃への転稼を検討。また、紐付き材の輸送費値上げ要求から、実施となり今後の見直しが必要となりそうである。